

令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同研究班」 研究報告書

令和4年 12月 22日現在

研究課題名	スラブ・ユーラシア地域におけるメディア文化史の共同研究		
担当者	氏名		所属機関・職
	1	野町 素己	スラブ・ユーラシア研究センター・教授
	2	安達 大輔	スラブ・ユーラシア研究センター・准教授
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	古宮 路子	東京大学大学院人文 社会系研究科・助教	20世紀ロシア文学
	研究テーマ		
	ロシア・アヴァンギャルド言語芸術の変遷史研究		

研究成果の概要

＜古宮の研究成果＞

1910年代と20年代という、革命をはさんで文化のモードが大きく変化した2つの時期の文学を取り上げ、両者を比較する立場から傾向を検証する研究を行った。文学の主要なジャンルは、1910年代には詩であったが、20年代になると散文へ移行した。この変遷の実態について、政変を目前とする時期の爛熟した文化界やネップ期の文芸復興といった革命前後のロシアのメディア文化環境を背景に考察した。

本年度の研究は、特に1920年代のアヴァンギャルド散文がテーマとなった。ネップ期のソ連文壇には様々なグループが乱立し、特に、アヴァンギャルドのレフグループ、ラップを頂点とするプロレタリア作家組織、「同伴者」と呼ばれた非党員作家に寛容な文学活動家ヴォロンスキーを指導者とする「ペレヴァール」派の3グループが強い影響力を持っていた。本年度は、これらの諸派閥の間でたたかわされた、ソ連散文における「リアリズム」と「心理主義」をめぐる議論の展開について、文学史の観点から解明し、論文「リアリズムと心理主義——1920年代文壇におけるレフとラップの闘争をめぐる」としてまとめた。

また、かねてより取り組んでいたレフグループの文学理論「ファクトの文学」についての研究を、ロシア語論文「Ретроспекция и авангард в 1920-е годы: о внесюжетной прозе в литературе факта」として発表した。これは、1920年代には「脱プロット散文」とも呼ばれたドキュメンタリー文学が、当時影響力のあった懐古主義の思潮への反論という性格を帯びていたことを指摘した研究である。

さらに、2017年に東京大学に提出した博士論文を、単著『オレーシャ『羨望』草稿研究——人物造形の軌跡』として刊行し、安達班班員の著作としてSRCの図書室に寄贈した。

研究成果の概要（続き）

＜国外研究者の招聘＞

国外研究者の招聘活動としては、国立文学博物館（モスクワ）の主席研究員であるナタリア・グローモワ氏に依頼し、2022年1月18日（火）18:00-20:00（日本時間）に、オンライン講演「Литературный процесс в Советской России в 20-30-х годах: по книге Наталья Громова «Узел. Поэты. Дружбы и разрывы. История литературного быта 1920-1930 годов»（1920-30年代ソ連文学の動向：ナタリア・グローモワ『「ウゼル」、詩人たち、友情と不和。1920-30年代文学生活の歴史』より）」を行なっていただいた。会では京都大学の中村唯史教授にコメンテーターとして登壇いただき、古宮が司会を務めた。この講演会は、科研費若手研究（課題番号20K12979）「ロシア・アヴァンギャルド散文の変遷史：1920年代ソ連文学の歴史・理論・美学」（代表：古宮路子）との共催であり、運営面で安達准教授に全面的に支援をいただいた。35名程度が参加した。

本講演は、グローモワ氏の著書『ウゼル』に基づいて、スターリニズムの確立と強化が進む1920-30年代ソ連の文学プロセスを、文学史の巨視的な流れと、作家や詩人たちの個人史との、有機的な相互作用という観点から解き明かす内容であった。そこでは特に、M. ブルガーコフ、B. パステルナーク、B. ルゴフスコイといった文学者たちの私生活と、スターリン体制下での創作の苦しみについて詳細な言及があった。中村教授からは、作家と体制の間の軋轢についてより深く掘り下げるような質問とコメントをいただいた。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

＜雑誌論文＞

1. 古宮路子「リアリズムと心理主義——1920年代文壇におけるレフとラップの闘争をめぐって」『SLAVISTIKA』2022年、第36号。（査読無、謝辞無）

＜図書＞

1. *Комия М. Ретроспекция и авангард в 1920-е годы: о внесюжетной прозе в литературе факта // Гречко В., Нам Х., Нонака С., Ким С. (ред.) Русская культура на перекрестках истории. Белград, Сеул, Сайтама: Логос, 2021. С. 189-199.*
2. 古宮路子『オレーシャ『羨望』草稿研究——人物造形の軌跡』成文社、2021年、全240頁。（謝辞無）

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）該当なし。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。